

第2回委員会における委員からの主な意見

文部科学省 研究振興局
参事官(情報担当)付 計算科学技術推進室

	主な意見	対応
ポスト「京」で重点的に取り組むべき社会的・科学的課題の選定方針について		
城山委員	リーディングマシン単体の話ではなく、計算科学技術インフラ全体として何ができるかの観点も重要。リーディングマシンで得られた成果を、次のステップで社会に根付かせていくために、その課題をやることがどのような意味を持つのかの観点も選定基準に加えた方が良い。その意味では、(4)の記述は活用の方法があるのではないか。	第3回委員会資料1-2「ポスト「京」で重点的に取り組むべき社会的・科学的課題の選定方針」に反映。
住委員	(1)と(2)は現在の「京」であっても重要な基準。ポスト「京」では、ポスト「京」でないとできない課題を重点的に選ぶような基準とした方が良い。	第3回委員会資料1-2に反映。
関口委員	はたして項目が5つも必要であるのか。一部重複する箇所もあり、(4)と(5)は(1)～(3)に集約するのも一案。	第3回委員会資料1-2に反映。
瀧澤委員	「京」での経験として、①コンソーシアムなど産業界を巻き込んだ体制を構築し研究開発を推進することで経済波及効果が得られつつある課題があることや、②必ずしも全ての課題で経済波及効果が得られるものではないこと、があげられる。今回の課題選定において、これらへの考慮が必要。	第3回委員会資料1-2に反映。
土屋委員	創薬のシミュレーション等では、一つの計算はそれほど大きくないものの、条件を変えて多数実行することで結果を得るような大規模計算もある。課題選定や計算資源配分において、これらへの考慮が必要。	第3回委員会資料1-2および第3回委員会資料3「ポスト「京」の計算資源配分(案)」に反映。
林委員	留意事項に「co-design」と記載があるが、これを記載した意義について、分かりやすい説明が必要ではないか。	第3回委員会資料1-2に反映。
平尾委員	課題選定の観点は、①科学的卓越性、②社会的インパクト、③ポスト「京」が必要なものの、3つにまとめるのが良いのではないか。	第3回委員会資料1-2に反映。
樫根ICSCP 企画委員長 (内山田委員の 代理出席)	(2)②では成果を産業界が利活用することに対する支援がない印象。産業界としては、フラッグシップシステムだけでなく、計算科学技術インフラ全体として、いかに産業界が使いやすく、製品開発や産業育成に役立つものにするかの観点も考慮して、課題を選定してもらいたい。	第3回委員会資料1-2に反映。

	主な意見	対応
ポスト「京」で重点的に取り組むべき社会的・科学的課題に関するアプリケーション開発・研究開発推進体制について		
城山委員	課題のレベル感や粒度について、具体例がないと議論が難しい。また、今回選定される課題では拾えない分野コミュニティでの取組との関係についても説明が必要。	本委員会の報告書に反映予定(分野コミュニティでの取組について言及)。
住委員	「代表機関」は「計算科学」に限定すべきではない。	本委員会の報告書に反映予定(代表機関は計算科学には限定しない)。
	HPCI戦略プログラムとポスト「京」アプリケーション開発・研究開発の関係を明確にすべき。HPCI戦略プログラムが終わって、また全く別のプログラムが立ち上がる訳ではなく、ダイナミックに統合されていく意図ならば、誤解を招かないような説明が必要。	本委員会の報告書に反映予定(ポスト「京」アプリケーション開発・研究開発とHPCI戦略プログラムの関係について言及)。
ポスト「京」で重点的に取り組むべき社会的・科学的課題について		
土居主査代理	将来のHPCIシステムのあり方の調査研究(アプリケーション分野)での調査結果も踏まえ、ポスト「京」で何に重点的に取り組むのか、まずは10課題～15課題程度を出してもらい、その中から優先順位を付けてもらいたい。	第3回委員会資料2-2「ポスト「京」で重点的に取り組むべき社会的・科学的課題(案)」に反映。
城山委員	課題の階層的な整理と分類の仕方は、課題をどのような単位で選定するかにかかわることであり、意識的に整理した方が良い。	第3回委員会資料2-2に反映。
林委員	防災分野の課題についての意見。 ①マルチハザードのような複合的な課題に取り組む必要があるのではないか。 ②都市への影響については、供給系・交通系への影響も含めた全体のシナリオ作りが重要。 ③南海トラフでは、社会的・経済的な影響が大きく、規模が大きい静岡県全体を対象としてはどうか。 ④ハザードのシナリオを明確にすることと、大規模社会インフラへの影響を知ることを目標においてはどうか。	第3回委員会資料2-2に反映。